調査報告2

関西大学博物館所蔵本山コレクション「日本の部」拓本目録

櫻木　潤

はじめに

関西大学博物館には、元大阪毎日新聞社社長の本山彦一が収集した考古資料・歴史資料である「本山コレクション」が所蔵されている。本山コレクションには、日本・中国・韓国の金石文の拓本があり、その数は約二三〇〇点に及ぶ。本山コレクションの拓本は、末永雅雄氏によって整理され、広く紹介された考古資料に比べて、その存在はあまり知られていない。日本の金石文拓本は、木崎愛吉の収集したもので、『大日本金石史』など、彼の一連の金石文研究のもとになったものである。なかにはすでに所在不明となった金石文の拓本もあるとみられ、貴重なデータとなるものも少なくない。

これまで、本山コレクションの拓本については、『史泉』第五三号（関西大学史学・地理学会、一九七九年）や『関西大学考古学等資料室紀要』第三号（関西大学考古学等資料室、一九八六年）などにおいて紹介されているが、いずれも簡潔なもので、それぞれの拓本の内容を含めた詳細な目録の作成は手つかずのままであった。

歴史資料遺産研究プロジェクトでは、本山コレクションの拓本のうち、「日本の部」について整理をし、目録を作成することとした。今年度は、そのうちで表装が完了している一二六点についての整理と目録の作成が終了したので報告する。

一、本山彦一と本山コレクション

本山彦一（一八五三～一九三二）は、熊本藩の足軽の子として生まれた。[1] 藩校時習館に学び、明治五年（一八七二）に上京。福沢諭吉の門下生となった。兵庫県庁勧業課長・学務課長として勤務するが、明治一五年（一八八二）に大阪新報社に入社、翌年には、時事新報に転じる。明治一九年（一八八六）に、藤田伝三郎に見出されて、大阪藤田組に入り、支配人となる。岡山県の児島湾開拓事業などを手がける傍ら、明治二二年（一八八九）に、経営不振に陥っていた大阪毎日新聞社の相談役となる。その後、藤田組総支配人を経て、明治三六年（一九〇三）に大阪毎日新聞社社長に就任する。明治四四年（一九一一）には、東京日日新聞を買収し、東京進出を果たした。彼は、それまで政論が中心であった新聞を「商品主義」のもと大衆の読み物とし、販売網を拡大し、大阪毎日新聞を、当時圧倒的な発行部数を誇っていた大阪朝日新聞に並ぶまでに発展させたのである。[2]

本山彦一は、「新聞界の巨人」[3]として著名であるが、彼の学術面での貢献は特筆すべきものである。自然科学の分野では、日本環海の海流調査、伊吹山や立山などでの気象観測所の建設、伊吹蛍の発見（のちに「本山蛍」と命名される）などがある。特に、考古学は「余の最も嗜好するところ」として、[4] 深い関心を持ち、「考古学界の最大のパトロン」[5]として大きな業績を残している。彼は、鳥居龍蔵や喜田貞吉、浜田耕作らと各地へ遺跡調査に赴き、鳥居らを中心にした発掘調査に後援をしている。特に、大阪府の河内国府遺跡・山口県の長府鋳銭司跡・佐賀県の肥前古陶窯跡の発掘は、「三大発掘」といわれ、本山が後援した大規模な発掘調査として有名である。また、大森貝塚の記念碑の建立にも関わっている。

本山は、遺跡の発掘を通して、多くの遺物を収集した。また、昭和五年（一九三〇）には、東京人類学会の初代会長であった神田孝平旧蔵の出土遺物など約一三〇〇点を譲り受けた。彼の収集品は、考古遺物だけではなく、書画や甲冑、武器、刀剣などにも及んでいる。こうして本山彦一によって収集された品々が「本山コレクション」である。

「神田コレクション」を譲り受けたのを契機として、本山は収集品の整理に着手し、そのために、浜田耕作に嘱託の派遣を要請した。そのとき、本山によって指名されたのが末永雅雄氏であった。また、本山は、堺市浜寺の自宅に隣接する富民協会農業博物館の一室を「本山考古室」と名づけ、収集品を陳列し、公開した。

本山彦一による学術的な活動は、学界に大きく貢献したが、一方で、これらの成果は、多くの場合、新聞事業に結びつけられ、「大毎」や「東日」の紙面を飾り、販売部数の増加につながったのである。

二、木崎愛吉と金石文研究

木崎愛吉（一八六五～一九四五）は、大坂南組農人橋材木町（現在の中央区材木町）の「大坂屋」という町代の家に生まれた[6]。幼い時から、人別帳などの町会所の記録に親しみ、市制や町政に関心を持つようになった。維新後も、彼の家が戸長役場となったことから市政に関する記録の扱いにも慣れていたという。若い頃は、文学青年で、小学校教諭として勤めながら、明治二四年（一八九一）に、大阪朝日新聞の小説記者である西村天囚らの呼びかけで結成された「浪花文学会」に参加し、機関誌『なにはかた』に小説を寄稿している。これが縁で明治二六年に大阪朝日新聞社に入社、政治・社会・文芸欄の編集を担当した。大正二年（一九一三）に同社を退社し、金石文などの研究に没頭するようになる。

木崎愛吉が金石文の研究をするようになったのは、幼い時の経験にもとづいている。なかでも、同じ町代出身の学者武内確斎や広瀬筑梁の影響を受け、彼らを慕ってそれぞれの墓所をたびたび訪ね、その墓碑銘を読んでいたことや、大阪の町人学者濱真砂の代理として訪ねた北河内の三浦家で、三浦蘭坂手拓本を目にしたことが金石文研究の直接の契機となったようである。また、大阪の金石文学者の小山田靖斎らの影響も大きい。明治二三年（一八九〇）には、友人でのちに朝日新聞で同僚となる磯野秋渚と「浪華墓跡考」を著している。これは、磯野と二人で大阪市内の墓碑をすべて見て回ることを思い立ち、その成果をまとめたものである。さらに、正岡子規の門人で浪華俳壇の先駆者水落露石や彼の従弟で俳人の武富瓦全らと大阪市内の墓碑を踏査するため「浪華摭古会」を組織した。しかし、会の活動はあまり振るわなかったようである。木崎は、こうした活動で得た成果を、大正三年（一九一四）に『摂河泉金石文』としてまとめたのを皮切りに、大正一〇年（一九二一）から翌一一年にかけて本文三巻と附図一巻からなる『大日本金石史』を著し、大正一一年には『大阪金石史』を出版している。

『摂河泉金石文』は、一巻で、現在の大阪府と兵庫県の一部にあたる摂津・河内・和泉地域の慶長年間以前の金石文一八〇点を収載する。そのなかには、他の地方に移されたものや他の地方から三地域に入ってきたものが含まれている。本文は、「墓版」・「墓碑塔」・「鐘」・「仏像」・「灯台」・「鏡」・「金口」・「擬宝珠」・「瓦」・「雑」の一〇章に分けられ、巻末に「附録」として、三浦蘭坂と小山田靖斎の伝記がある。『大日本金石史』は、本文三巻と附図一巻からなる。慶長年間以前の、陸奥国から琉球までの日本各地の金石文七六七点が収載されている。第一巻には飛鳥時代から平安時代、第二巻には鎌倉時代から南北朝時代、第三巻には室町時代から桃山時代の金石文が配されている。附図には、そのうちの九二点と、『摂河泉金石文』所収の一〇点、番外一点の計一〇二点の拓影のコロタイプ図版を収める。『大阪金石史』は、一巻で、『摂河泉金石文』・『大日本金石史』に収載しなかった元和元年（一六一五）から元禄一六年（一七〇三）までの大阪の金石文一九一点が収められている。本文は、「前編」・「中編」・「後編」からなり、最後に「附録」として慶長以前の金石文を収めている。『大日本金石史』は、それまで考証学的研究であった金石文研究に対して、金石学を歴史学の補助学として位置づけ、通史を叙述した点に新しさがあると評価されているが、現在では修訂を要する記述や増補されるべき遺品が少なくないとされる[7]。

木崎愛吉が『大日本金石史』などを著した動機は、故郷大阪への郷土愛にある。彼は自らを「大阪狂」と呼び、「大阪を日本一のエライところと心得て」いると述べている[8]。木崎は、『大日本金石史』の跋文で、出版業を例にして、江戸時代には「文化の父たる図書出版の事業」の中心であった大阪が、今や東京に取って代わられている現状をくわしく述べている

が、[9]その行間からは、大阪の出版業の衰退に対する彼の嘆きが読み取れる。木崎自身が『大日本金石史』の原稿を何軒かの大阪の印刷所に持ち込んだものの、東京の印刷業者に持っていくように勧められ、何とか大阪の「或る有数の印刷所」の一重役のおかげで、すべての印刷が完成したという。[10]

木崎愛吉は、金石文研究だけでなく、井原西鶴や大阪の儒者で詩人でもある篠崎小竹などの研究でも多くの業績を残している。特に、頼山陽と田能村竹田の研究は有名であり、昭和二年（一九二七）に『頼山陽書翰集』、昭和六年に『頼山陽全伝』を著し、昭和七年に『頼山陽全書』、昭和一一年に『田能村竹田全集』を編纂している。

木崎愛吉が研究したテーマは多岐に及んでいる。彼の研究の主題は、近世漢詩文を中心とする江戸時代の学芸の流れであったとされるが、[11]その底流には、彼による故郷大阪への郷土愛が息づいているのである。

三、本山コレクションの拓本と木崎愛吉

関西大学博物館には、二三〇〇点あまりにおよぶ金石文の拓本が所蔵されている。これらの拓本は、本山彦一の収集品である本山コレクションの一部である。本山コレクションは、その整理と目録作成にあたった末永雅雄氏が、昭和二七年（一九五二）に関西大学に着任したことから、その貴重なコレクションの散逸を防ぐために、本山彦一の子息である二世本山彦一氏の要請もあって、関西大学に移管された。[12]本山コレクションのうち、河内国府遺跡の出土品などの考古資料については、末永氏が、『本山考古室要録』などで広く紹介し、また、関西大学博物館で展示されているために、よく知られている。それに対して、二三〇〇点もある拓本のコレクションについては、その存在はあまり知られていない。[13]

『関西大学考古学等資料室紀要』（以下、『資料室紀要』と略称する）第三号によると、本山コレクションの拓本は、「日本の部」・「中国の部」・「朝鮮の部」に分類され、その合計は、二一三〇点である。それに『史泉』第五三号に紹介されている梵鐘拓本一九九点を加えると、合計で二三二九点となる。その内訳は、「日本の部」が一三七六点あり、全体のおよそ六割を占める。「中国の部」は九二三点で、そのうちの七四四点が龍門石窟のものである。「朝鮮の部」は墓誌類の六点である。

「日本の部」の拓本のうち、いくつかには「好尚所蔵金石」という朱印が捺されている。好尚は木崎愛吉の号であり、この印は、『大日本金石史』の附図一巻にみえるものと同一のものである。したがって、関西大学博物館所蔵の本山コレクションの「日本の部」拓本は、『大日本金石史』など一連の金石文研究のために木崎愛吉が収集した拓本なのである。なぜ、木崎愛吉が収集した拓本が本山コレクションに入っているのであろうか。これまでは、本山彦一が木崎愛吉から譲り受けたとみられていたが、『大阪金石史』の「後説」からは、それとは異なった事情が考えられるのである。

木崎愛吉によると、大正一一年の『大阪金石史』を出版する際には、資金難であったらしい。さし当たっては木崎の蔵書のうちで急に必要としないものを売却し、資金を捻出しようとした。しかし、それだけでは足らず、研究に用いた全国の金石文の拓本類を手放す決意をする。[14]そこで、全部を一まとめにして譲り受けたいという「篤志の人士」を紹介され、いつでも借覧できるという好条件で、その「篤志の人士」に拓本類を売却したのであった。それでも出版資金には足らず、友人らの援助を加えて、ようやく『大阪金石史』の出版にこぎつけたのであった。

木崎愛吉は、『大阪金石史』を出版するにあたって、自らが収集した拓本を売却した相手について、「篤志の人士」として、その名を明かしていないが、この「篤志の人士」は、大阪毎日新聞社社長の本山彦一である可能性が高いと考えられる。本山彦一が、さまざまな学問分野に対して、その後援者となっていたことは先に述べた。また、彼は個人に対しても研究費用などの援助をしている。例えば、宮武外骨が、明治時代の新聞や雑誌などを集め、東京帝国大学法学部に設置した「明治新聞雑誌文庫」に資金援助をしているが、その際、本山は、外骨が集めた資料を一括して買い取り、そのまま文庫に寄付するという形をとっている。[15]この方法は、『大阪金石史』の出版のために木崎愛吉が収集した拓本を購入した「篤志の人士」に通じるものがある。木崎愛吉のいう「篤志の人士」は、本山彦一と

みてよいであろう。

また、木崎愛吉と本山彦一を結びつけた人物として、大阪毎日新聞の記者で、のちに京都支局長となり、さらには京都市史編纂事務局に迎えられた岩井武俊の存在が注目される。[16] 岩井は、大正六年（一九一七）一〇月に河内国府遺跡の発掘に際して組織された「本山発掘隊」の一員であり、本山彦一に近い人物であったとみられる。また、岩井武俊も金石文を研究し、その成果を専門雑誌や「大毎」紙上に発表していたようである。木崎愛吉は、岩井の成果を『大日本金石史』に引用し、出版されると一部を進呈している。岩井も木崎からの進呈に対して、二度も疑問点を指摘する書簡を送っている。[17] 当時、岩井は病床にあったようであるが、それにもかかわらず矢継ぎ早に二度も木崎に書簡を送っていることは、岩井の木崎による金石文研究に対する関心の高さを示しているといえよう。岩井自身が、拓本術にかなりの腕前を持っていたようで、彼の死に際し毎日新聞京都支局の取材に、梅原末治は、拓本術を岩井に教わったと語っているほどである。そうした岩井が、『大阪金石史』の出版の資金に窮していた木崎を本山彦一に紹介した可能性は高いといえるだろう。

木崎愛吉は、拓本の買い手やその紹介者の名を明かさなかったのは、本山彦一と岩井武俊が、大阪毎日新聞社に関わる人物であったからだろう。木崎は、以前勤めていた大阪朝日新聞社を憚ったのではなかろうか。

四、拓本の内容と調査

関西大学博物館所蔵の本山コレクションの拓本は、一九八〇年頃に、当時、文学部教授であった壺井義正氏によって分類され、一点ずつ大型封筒に封入し、ファイリングキャビネットに整理された。しかし、保存状態が良くないため、一九九〇年代に、関西大学考古学等資料室の角田芳昭氏が中心となって、毎年数点ずつ、傷みの激しい拓本から整理し、表装されてきた。[18]

本山コレクションの「日本の部」拓本の内容は、『資料室紀要』第三号のリストにしたがえば、那須国造碑や多賀城碑などの「一般碑石」が七一点、供養碑や板碑などの「顕功頌徳碑」が八七点、「墓誌・墓碑銘類」が一〇八点、「墓碑類」が九一点、「板石・石塔婆類」が一四四点、「石仏造像銘類」が八五点、「燈籠類」が一〇五点、「金口擬宝珠・金具類」が六四点、「銅鉄諸器類」が三四点である。それに『史泉』第五三号にある「梵鐘拓本」の一七五点である。

今回の調査は、「日本の部」の拓本で表装が完了している一二六点について行った。調査は、二〇〇五年一〇月下旬から一一月中旬にかけて、関西大学博物館において、日本古代・中世史専攻の大学院生を中心に、共同作業によって調書を作成するというものであった。一二月初旬には、調書の不備な点について再度調査し、あわせて『大日本金石史』に収載されているかどうかについての調査を行った。そして、二〇〇六年一月に、調書をもとにして目録原稿を作成した。

調査参加者は次の通りである。

歴史資料遺産研究班

西本昌弘（プロジェクトリーダー）

櫻木　潤（R.A.）

大学院生　佐藤健太郎・中井裕子・川崎晋一・芳之内圭・福田正・今西加奈・岡田玲子・北田郁美・宮武　聡・山口哲史

今回の調査の結果については、目録をご覧いただきたい。調査で得られたデータから気づいた点をいくつか述べると、拓本の内容から『資料室紀要』などの拓本リストを修正しなければならないものがいくつか見出された。また、拓本の袖部などに「好尚所蔵金石」の朱印が捺されているものがあり、これまで考えられてきたように本山コレクションの「日本の部」の拓本が、もとは木崎愛吉所蔵のものであることが改めて確認できた。なかには収集した年月日を記したものがあり、木崎愛吉の拓本収集の経過を知ることができる。木崎愛吉が知人から寄贈されたことを示す記述や、木崎以外の手拓にかかるものであることを示す記述も見出された。さらに、『大日本金石史』などに収載されていないものが数多くあることがわかった。

以上のことから、関西大学博物館に所蔵される本山コレクションの「日本の部」拓本は、金石文研究における資料として活用されるだけではな

く、木崎愛吉は、『大日本金石史』に収載する際に、収集した拓本を取捨選択していることから、木崎による『大日本金石史』編纂の方針を知る上で貴重な材料となる。江戸時代には、各地の『名所図会』が編纂されて、記念碑や墓碑、名所旧跡が紹介され、人々は『名所図会』をもとにそれらを訪れるようになる。特に、著名な人物の墓碑を訪れ、故人の遺徳を偲ぶ「掃苔（そうたい）文化」は、明治末期から昭和初期にブームとなるが[19]、木崎愛吉の収集した拓本には墓碑銘が数多く、この時期の掃苔ブームを知る手がかりともなる資料である。

本山コレクションの「日本の部」拓本は、さまざまな可能性をもつ資料であるということができるのである。

五、目録について

今回紹介する拓本の目録の諸項目は、①今回の調査における整理番号、②外題（外箱に帖られたタイトルをとった）、③『資料室紀要』などのリスト番号など（「資」は『資料室紀要』、「博」は『関西大学博物館紀要』、「史」は『史泉』を表す。例えば、『資料室紀要』第三号のリストで「一般碑石」3は、「資3―一般碑石3」とした。また、『関西大学博物館紀要』創刊号の一二六ページに紹介されているものは、「博創―126頁」とした）、④員数、⑤装幀、⑥時代、⑦軸装の法量（縦・横・軸長、単位糎、二紙以上のもので長さが等しいものはまとめて表記した）、⑧銘文の性格、⑨書出、⑩書止、⑪奥書、⑫年紀、⑬『大日本金石史』の掲載の有無（掲載されていれば巻数と頁数。なお、今回用いた『大日本金石史』は、昭和四七年に歴史図書社から発行されたものである。これは、『摂河泉金石文』・『大阪金石史』をあわせて全六巻にしたものである。第一巻から第三巻までが『大日本金石史』、第四巻が『摂河泉金石文』、第五巻が『大阪金石史』、第六巻目が『大日本金石史』の附図にあたる）、⑭備考、である。なお、時代区分については、「東京大学日本史学研究室架蔵拓本目録索引」（『東京大学日本史学研究室紀要』第二号、一九九八年）にしたがった。また、判読不能の文字は□で示した。

今回調査した拓本は、本山コレクションの「日本の部」に分類されるもののうち、一割弱に過ぎない。今後、残された未表装の拓本についても調査を行う予定である。また、今回の目録についてもさらに内容その他に検討を加え、拓本の写真を含めて、より整った形で、関西大学博物館所蔵の本山コレクションの「日本の部」拓本を紹介し、これらの拓本が広く研究に資するものとなるようにしたいと考えている。

註

（1）本山彦一については、故本山社長伝記編纂委員会編『松陰本山彦一翁』（大阪毎日新聞社、一九三七年）、「考古学の揺りかご「本山発掘隊」」（毎日新聞130年史刊行委員会『「毎日」の3世紀―新聞が見つめた激流130年（上巻）』、毎日新聞社、二〇〇二年）、三善貞司編『大阪人物辞典』（清文堂出版株式会社、二〇〇二年）を参照した。

（2）金戸嘉吉「本山彦一の新聞商品思想」（『井上教授古稀記念　新聞学論集』、関西大学新聞学会、一九六〇年）。

（3）本山彦一の死の直後、「大毎」・「東日」両紙に掲載された徳富蘇峰の追悼文（註（1）『松陰本山彦一翁』、六〇二頁）。

（4）大正十二年五月十七日に行われた青島の別荘「擧燭山荘」の落成披露会での本山彦一の挨拶（註（1）『松陰本山彦一翁』、五二七頁）。

（5）註（1）「考古学の揺りかご「本山発掘隊」」。

（6）木崎愛吉氏については、木崎愛吉「この小篇の末に」（『大日本金石史』㈢、歴史図書社、一九七二年）、同「序説」（『大日本金石史』㈤、同上）、朝日新聞百年史編修委員会編『朝日新聞社史　明治編』（朝日新聞社、一九九〇年）、三善氏編、註（1）を参照した。

（7）『国史大辞典』「大日本金石史」の項（東野治之氏執筆）

（8）註（6）木崎愛吉「この小篇の末に」四頁上段。

（9）註（8）一～三頁。

（10）註（8）

（11）肥田皓三「木崎好尚手拓の近世名家墓碑銘」（『阡陵』第一〇号、関西大学考古学等資料室、一九八四年）。

（12）本山コレクションが関西大学に移管された経緯については、末永雅雄『日本考古学への道　一学徒が越えた』（雄山閣出版、一九八六年）、同氏『常歩無限　関西大学考古学廿年の歩み』（関西大学教育後援会、一九八六年）にくわしい。

（13）本山コレクションの拓本のうち、「朝鮮の部」拓本六点は、末永雅雄氏が編集し

た『富民協会農業博物館　本山考古室要録』（一九三五年）に「墓誌」として収載されている。

(14) 木崎愛吉「後説」（『大日本金石史』（五）、歴史図書社、一九七二年）。

(15) 「本山彦一と明治文庫　宮武外骨に資金援助」（註（1）『「毎日」の3世紀―新聞が見つめた激流130年（上巻）』）

(16) 岩井武俊氏については、註（1）「考古学の揺りかご「本山発掘隊」」を参照した。

(17) 木崎愛吉「岩井武俊氏より」（『大日本金石史』（三）、歴史図書社、一九七二年）には、二通の書簡が収載され、それに対する木崎愛吉の意見が「右に対して」として述べられている。

(18) 角田芳昭「金石文拓本について―表装が完了した著名金石文―」（『関西大学考古学等資料室紀要』第九号、一九九二年）。

(19) 内海寧子「明和―享和期の大坂における墓碑探訪と「掃苔文化」」（『史泉』第一〇一号、二〇〇五年）。

【一】［外題］下野那須国造碑拓影

資3―一般碑石3　資9―89頁　［員数］一幅

［装幀］掛幅装　［時代］飛鳥時代

［軸装の法量］縦一二九・〇糎　横六一・一糎　軸長一九九・四糎

［銘文の性格］石碑

［書出］永昌元年己丑

［書止］飛旡根更固

［奥書］

［年紀］永昌元年（六八九）か

［『大日本金石史』］一―前編七〇頁・附図―二三頁

［備考］奥部　大正三年九月廿八日

足利　丸山瓦全君児贈

朱印「好尚所蔵金石」

【二】［外題］多賀城碑

資3―一般碑石9　資9―88頁　［員数］一幅

［装幀］掛幅装　［時代］奈良時代

［軸装の法量］縦一五三・二糎　横八二・七糎　軸長一一九・五糎

［銘文の性格］碑文

［書出］去京一千五百里

［書止］藤原恵美朝臣朝獦修造也

［奥書］

［年紀］天平宝字六年（七六二）十二月一日

［『大日本金石史』］一―前編一六五頁

［備考］奥下に朱印「好尚所蔵金石」

【三】［外題］伯耆守名和長年碑銘

資3―一般碑石16　［員数］一幅

［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代

［軸装の法量］縦一三・三糎　横五二・二糎　軸長一九七・四糎

［銘文の性格］碑文

［書出］故伯耆守名咏君碑

［書止］

［奥書］

［年紀］

［『大日本金石史』］なし

［備考］【四】と同じ箱

【四】［外題］伯耆守名和長年碑銘

資3―一般碑石16　［員数］一幅

［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代

［軸装の法量］縦一三〇・二糎　横五九・二糎　軸長一九八・二糎

［銘文の性格］碑文

［書出］故伯耆守名和君碑陰記

［書止］凌霜氣節　貫日精神　氏殿舊址　威徳惟新

［奥書］因幡伯耆国主従四位行左近衛権少将源朝臣慶徳　建

［年紀］安政五年（一八五八）五月日
［『大日本金石史』］なし
［備考］【三】と同じ箱

【五】［外題］宇喜多一恵斎碑　資9―一般碑石20　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦二一六・五糎　横五九・五糎　軸長一四八・六糎
［銘文の性格］碑文
［書出］宇喜多一蕙斎碑
［書止］嗚乎一蕙
［奥書］神宮祭主二品勲一等朝彦親王篆額　一等編脩官従五位巖谷修書　男可成建
［年紀］明治一三年（一八八〇）以降か
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【六】［外題］土佐十一士忠烈碑　資3―一般碑石22　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦九八・五糎　横五六・三糎　軸長一六六・五糎
［銘文の性格］碑文
［書出］泉之妙国寺為土藩十一士殉国之地
［書止］嗚呼忠烈碑予乃作銘
［奥書］土佐滄溟宇田友諜并書
［年紀］明治癸卯（一九〇三）
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【七】［外題］坂本龍馬忠魂碑　資3―一般碑石23　資9―109頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一八二・四糎　横七七・六糎　軸長二四三・一糎
［銘文の性格］碑文
［書出］明治三七年
［書止］永ク坂本氏ノ忠魂ヲ表ス
［奥書］逓信大臣従三位勲一等大浦兼武撰　従七位近藤富寿書
［年紀］明治三七年（一九〇四）十二月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八】［外題］十津川郷士碑　資3―一般碑石25　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］大正時代
［軸装の法量］縦一五一・三糎　横九三・四糎　軸長二二三・八糎
［銘文の性格］碑文
［書出］明治之初大政一新
［書止］於是乎不廃矣
［奥書］大阪木崎孝諜并書
［年紀］大正五年（一九一六）歳次丙辰九月十日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九】［外題］西山宗因記念碑　資3―一般碑石27　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦九四・三糎　横四六・五糎　軸長一八一・八糎
［銘文の性格］碑文
［書出］西山宗因肥後ノ人

［書止］今年寛政十一年己未迄百十八年ニ至ル
［奥書］江戸誹談林七世
浪花之産　一陽井谷素外
［年紀］寛政十一年（一七九九）
［『大日本金石史』］五巻―中編二九六頁
［備考］

【一〇】［外題］西山宗因記念碑　資3―一般碑石27　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一一五・四糎　横四七・七糎　軸長一八二・四糎
［銘文の性格］碑文
［書出］宵のとし雨ふりける元日に
［書止］さく夜の雨や花の春
［奥書］誹談林初祖　梅翁西山宗因
［年紀］
［『大日本金石史』］五巻―中編二九七頁
［備考］天満宮宗因記念碑其二　朱印「好尚所蔵金石」

【一一】［外題］中村歌右衛門碑　資3―一般碑石28　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦八二・三糎　横四九・五糎　軸長一四七・四糎
［銘文の性格］碑文
［書出］歌唄院宗讃日徳信士
［書止］今茲新建寿蔵碑予擧其槩略以識于碑
［奥書］文政七年甲申四月　本覺山現住日遵
［年紀］文政七年（一八二四）甲申四月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【一二】［外題］吉山兆上人　資3―一般碑石32　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］縦四七・五糎　横三三・二糎
軸長　縦一一三・七糎　横四五・三糎
［銘文の性格］
［書出］諸仏非我道何者是我道
［書止］永明之孫切覚子
［奥書］池□（ヤカ）而筆之書（四角で印あり）
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【一三】［外題］濃州養老泉碑銘　資3―一般石碑37　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］①縦四三・七糎　横五〇・二糎
②縦三五・一糎　横五〇・二糎
軸長一四五・六糎
［銘文の性格］碑文
［書出］元正御極王道平〻
［書止］於是建碑以識其所
［奥書］呉越程赤城書
［年紀］乾隆五十年（一七八五）歳次乙巳正月吉旦
［『大日本金石史』］なし
［備考］②袖に朱印「好尚所蔵金石」

【一四】［外題］味原町碑　資3―一般石碑39　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］大正時代

［軸装の法量］縦一三三・五糎　横六八・〇糎　軸長二〇二・〇糎
［銘文の性格］碑文
［書出］清水谷木崎孝文竝下丹
［書止］併記勒之貞石
［奥書］
［年紀］大正壬戌（一九二二）紀元節
［『大日本金石史』］なし
［備考］首部右方に印「好尚所蔵金石」

【一五】［外題］廃世尊寺鐘銘
資3―顕功頌徳碑87　博創―126頁　［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］平安時代～鎌倉時代
［軸装の法量］①縦四六・五糎　横七六・五糎
②縦四五・二糎　横七五・二糎
③縦四六・三糎　横五六・五糎
④縦四七・二糎　横七七・八糎
軸長二七四・二糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］保延六年十二月五日
［書止］衆生平等利益
［奥書］勧進聖願阿弥陀仏
［年紀］①保延六年（一一四〇）十二月五日
②保延七年歳次辛酉（一一四一）
③永暦元年庚辰（一一六〇）九月
④寛元二年甲辰（一二四四）四月九日
［『大日本金石史』］一―後編三七六頁
［備考］①袖に朱印「好尚所蔵金石」
端書「大正二年七月十一日吉野廃世尊寺鐘（朱印「好尚所拓」）其一」
②袖に「其貳」朱印「好尚所拓」・「好尚所蔵金石」
③袖に「其三」朱印「好尚所拓」・「好尚所蔵金石」
④袖に朱印「好尚所蔵金石」
端に「其四」端に朱印「好尚所拓」

【一六】［外題］小野毛人墓誌
資3―墓誌・墓碑銘類2　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］飛鳥時代
［軸装の法量］縦六二・二糎　横二六・四糎　軸長一二四・五糎
［銘文の性格］墓誌
［書出］飛鳥浄御原宮治天下天皇
［書止］小野毛人朝臣之墓
［奥書］營造歳次丁丑年十二月上旬即葬
［年紀］歳次丁丑年（天武天皇五年　六七七）十二月上旬
［『大日本金石史』］一―前編五五頁・附図―一五頁
［備考］

【一七】［外題］威奈卿大村氏墓誌
資3―墓誌・墓碑銘類4　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］奈良時代
［軸装の法量］縦四五・五糎　横八四・二糎　軸長一二六・一糎
［銘文の性格］墓誌
［書出］小[少]納言正五位下威奈卿墓誌銘并序
［書止］空対泉門長悲風燭
［奥書］
［年紀］慶雲四年（七〇七）一一月二一日以降か
［『大日本金石史』］四―第一章墓版八頁
［備考］朱印「好尚所拓」

【一八】［外題］伊福吉部徳足比売墓碑銘
資3―墓誌・墓碑銘類6　［員数］一幅（四紙）

［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］①縦八七・九糎　横六六・〇糎
②縦四一・〇糎　横一九・五糎
③縦四六・五糎　横一九・二糎
④縦八七・九糎　横四〇・七糎
軸長一八六・二糎
［銘文の性格］碑文
［書出］平安大宮尓天下所知食
［書止］聊書誌尓那毛
［奥書］如此云者源長秋
［年紀］文政二年（一八一九）登云年十二月廿一日
［『大日本金石史』］なし
［備考］①袖に朱印「好尚所拓」

【一九】［外題］石川年足墓誌
資3―墓誌・墓碑銘類9　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］奈良時代
［軸装の法量］縦三一・〇糎　横一二・二糎
軸長縦六二・七糎　横一七・八糎
［銘文の性格］墓誌
［書出］武内宿祢命子
［書止］嗚呼哀哉
［奥書］
［年紀］天平宝字六年（七六二）か
［『大日本金石史』］四―第一章墓版一六頁
［備考］袖部朱印「好尚所蔵金石」

【二〇】［外題］高屋連枚人墓誌
資3―墓誌・墓碑銘類10　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］奈良時代
［軸装の法量］縦二九・一糎　横二二・二糎　軸長七七・六糎
［銘文の性格］墓誌
［書出］故正六位上常陸国大目
［書止］十一月乙卯朔廿八壬午葬
［奥書］
［年紀］宝亀七年（七七六）
［『大日本金石史』］四―第一章墓版二三頁
［備考］奥に朱印「好尚所拓」・「好尚所蔵金石」

【二一】［外題］紀氏吉継墓
資3―墓誌・墓碑銘類11　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］奈良時代
［軸装の法量］縦三〇・〇糎　横二一・二糎　軸長七八・〇糎
［銘文の性格］墓誌
［書出］維延暦三年歳次甲子朔癸酉丁酉
［書止］諱廣継之女吉継墓志
［奥書］
［年紀］延暦三年（七八四）
［『大日本金石史』］四―第一章墓版二六頁
［備考］袖部朱印「好尚所拓」・「好尚所蔵金石」

【二二】［外題］暁鐘成翁墓
資3―墓誌・墓碑銘類15　資10―127頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦九四・四糎　横九六・一糎　軸長一六九・二糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］翁号ハ明啓木村弥四郎と称す
［書止］其友たりし因を以て也
［奥書］鹿鳴学舎生田有水撰書
［年紀］明治四十四年歳次辛亥（一九一一）

［『大日本金石史』］なし
［備考］

【二三】［外題］麻田剛立墓碑名
資3―墓誌・墓碑銘類17　資10―119頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦八七・五糎　横一一八・七糎　軸長一九二・一糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］寛政十一年五月二十二日剛立麻田君卒年六十六
［書止］浄春高四尺者君之墳邪
［奥書］中井曽弘撰　谷川□□□（裕謹書）
［年紀］寛政十一年（一七九九）五月二十二日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【二四】［外題］大雅墓碑
資3―墓誌・墓碑銘類19　資9―93頁　［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六五・五糎　横九〇・三糎　軸長一二四・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］池貸成歿矣既表墓焉
［書止］庶安子哉浄光之地
［奥書］淡海竺常撰　韓宍寿書
［年紀］安永六季丁酉（一七七六）六月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【二五】［外題］伊藤若沖墓碑銘
資3―墓誌・墓碑銘類21　資10―114頁　［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦八六・二糎
横①一五・六糎②三三・九糎③三四・七糎④二六・七糎
軸長一六六・八糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］居士名汝釣字景和
［書止］逝将固済子邪
［奥書］淡海竺常大典撰
［年紀］明和三年丙戌（一八七〇）十一月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【二六】［外題］伊藤東涯碑
資3―墓誌・墓碑銘類23　資10―111頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一一九・二糎　横①六五・七糎②二一・五糎
軸長一九〇・七糎
［銘文の性格］碑文
［書出］嗟乎東涯先生
［書止］堅珉勒銘
［奥書］子善韶建
［年紀］元文二年歳次丁巳（一七三七）夏六月望日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【二七】［外題］井上真改墓碑銘
資3―墓誌・墓碑銘類25　資10―124頁　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一〇四・六糎
横①二六・四糎②三五・五糎③二七・五糎
軸長一七六・四糎

［銘文の性格］墓碑銘
［書出］井上和泉守國貞姓藤原後號真改
［書止］碑文建側以附追遠之義云
［奥書］（第二紙）巽所八木廸撰　北條泰書
（第三紙）刀剣商家工匠好愛諸氏建
［年紀］天保二辛卯年（一八三一）十一月九日
［『大日本金石史』］五―中編三〇一頁
［備考］

【二八】［外題］入江育齋翁墓碑銘
資3―墓誌・墓碑銘類26　資10―120頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦九一・二糎　横①六八・四糎②三六・八糎
軸長一六九・二糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］大阪住友爻直既葬
［書止］其獨姓入江存土州之舊也、今年實寛政十一年
［奥書］中井曽弘撰
［年紀］寛政十一年（一七九九）
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【二九】［外題］昌喜入江翁墓
資3―墓誌・墓碑銘類27　資10―122頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一三四・五糎　横六七・三糎　軸長一九九・二糎
［銘文の性格］墓誌
［書出］入江翁墓誌銘
［書止］其書数書有遺芬尚徴之梅松之墳
［奥書］芸藩教授頼惟寛勤撰　浪華處士篠應道謹書
［年紀］享和二年壬戌（一八〇二）三月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三〇】［外題］大岡法橋春川墓
資3―墓誌・墓碑銘類28　資10―116頁　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六五・九糎　横①二〇・三糎②三九・九糎③三三・二糎
軸長一五五・三糎
［銘文の性格］墓誌
［書出］法橋大岡春川君墓志銘
［書止］浪華東郊光明寺中銘曰
［奥書］孝子政董建
［年紀］安永三年（一七七四）秋八月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三一】［外題］小山田高家碑
資3―墓誌・墓碑銘類33　資10―125頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一二五・七糎　横六六・三糎　軸長一九〇・〇糎
［銘文の性格］碑文
［書出］處女塚者耶
［書止］天照草業可毋
［奥書］紀殿人伊達藤二郎藤原千広記
［年紀］弘化三年丙午（一八四六）十一月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三二】［外題］片山北海之墓
資3―墓誌・墓碑銘類34　資10―121頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦八四・四糎　横①六八・二糎②六七・七糎
軸長一七八・四糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］君諱猷字孝秩
［書止］何招魂于彼
［奥書］淡海竺常謹譔　浪華筱應道謹書
［年紀］寛政二年（一七九〇）九月二二日以降
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三三】［外題］賀茂真淵墓碑銘拓影
資3―墓誌・墓碑銘類35　資9―94頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一一七・三糎　横五二・二糎　軸長一七九・八糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］縣居于志名者真淵
［書止］志努婆謝羅免也
［奥書］橘千蔭分文作氏自書判
［年紀］享和元季（一八〇一）三月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三四】［外題］木下順庵墓碑その一
資3―墓誌・墓碑銘類39　資9―91頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六六・二糎　横一四・四糎　軸長一一四・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］木恭靖先生之墓
［書止］
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三五】［外題］木下順庵墓碑その二
資3―墓誌・墓碑銘類39　資9―91頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六六・一糎　横一四・三糎　軸長一一四・三糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］先生諱貞幹
［書止］私謚恭靖先生云
［奥書］
［年紀］元禄十一年（一六九八）十二月二十三日以降
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三六］［外題］釧路雲泉墓碑（出雲崎碑）
［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］大正時代
［軸装の法量］縦五六・二糎　横二七・三糎　軸長一〇五・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘か
［書出］畫博雲泉有功於南宗也大矣
［書止］庶幾乎其不朽
［奥書］東京　又玄畫社同人
［年紀］大正十年（一九二一）六月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三七】［外題］伯鳳小山君墓
資3—墓誌・墓碑銘類49　資10—117頁　［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦九四・二糎　横①二八・二糎②三三・七糎
③三八・三糎④三三・一糎　軸長一八六・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］吾友伯鳳其先良観和泉人
［書止］銘詩在石
［奥書］安芸頼弥太郎惟寛撰并書
［年紀］安永四年（一七七五）夏五月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三八】［外題］坂田藤十郎墓碑
資3—墓誌・墓碑銘類53　資10—109頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦二五・二糎　横五二・四糎　軸長一〇〇・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］重与一室信士
［書止］坂田藤十郎
［奥書］
［年紀］宝永六年（一七〇九）十一月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【三九】［外題］坂本剛毅碑銘
資3—墓誌・墓碑銘類54　資10—126頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一三四・五糎　横六〇・七糎　軸長一九五・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］君諱俊貞字叔幹
［書止］丁酉偉蹟　以貽後毘
［奥書］浪華府学懐徳書院教授並河鳳来謹撰并書
［年紀］文久二年壬戌（一八六二）五月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【四〇】［外題］小竹篠崎先生之墓
資3—墓誌・墓碑銘類60　資9—99頁　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦九九・二糎　横①一六・一糎②六八・四糎
③四四・九糎　軸長一九八・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］嘉永四年歳次辛亥五月八日小竹先生篠崎君
［書止］可不謂賢歟
［奥書］伊勢斎藤謙撰　丹後野田逸題表　門人呉策書　孝子槩建
［年紀］安政二年歳次乙卯（一八五五）五月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【四一】［外題］田中杏亭之墓
資3—墓誌・墓碑銘類73　資10—118頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］①縦六六・〇糎　横四一・二糎
②縦六六・〇糎　横五一・九糎
軸長一五六・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］嗚呼惟国手田中杏亭翁墓
［書止］教成于内　後流名芳
［奥書］布衣友人　同郡奥田元継謹撰　孝子世文謹建

［年紀］安永九年龍次庚子（一七八〇）冬十月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【四二】［外題］鐵眼道光和尚荼毘処碑銘
資3―墓誌・墓碑銘類75　資10―102頁　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦①二三・〇糎②四三・五糎③四二・五糎
横六〇・四糎　軸長一七〇・二糎
［銘文の性格］碑文
［書出］師諱道光號鐵眼
［書止］樹塔于寶藏之西隅
［奥書］
［年紀］天和二壬戌年（一六八二）三月二十二日
［『大日本金石史』］五―中編二九〇頁（「鐵眼和尚塔」とあり）
［備考］

【四三】［外題］中井甃菴墓碑
資3―墓誌・墓碑銘類77　資10―113頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一〇三・七糎　横①六七・三糎②三三・九糎
軸長一七六・四糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］宝暦八年戊寅六月十七日
［書止］内外普施吾見其人非君其誰
［奥書］五井純禎撰　三宅正誼書
［年紀］宝暦八年戊寅（一七五八）六月十七日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【四四】［外題］並木正三之墓
資3―墓誌・墓碑銘類81　資10―115頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六〇・一糎　横一三三・八糎　軸長一六〇・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］並木正三其父曰
［書止］而終南無三
［奥書］笹瀬散人撰　大平道人書
［年紀］安永二癸巳（一七七三）二月十七日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【四五】［外題］林子平墓碑
資3―墓誌・墓碑銘類85　資9―100頁　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦①一一・四糎②三三・五糎③一八〇・六糎
横九四・四糎　軸長二九一・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］前哲林子平碑
［書止］早成政守可恃験諸今日云何呼矣
［奥書］仙台藩学養賢堂学頭臣大槻清崇撰并書
［年紀］慶応元年（一八六五）十月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【四六】［外題］尾藤二洲墓碑
資3―墓誌・墓碑銘類86　資10―123頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦八八・五糎　横①二九・二糎②三五・五糎
軸長一六四・八糎

［銘文の性格］墓碑銘
［書出］先生姓藤氏世称尾藤
［書止］不敢妄称迷
［奥書］門人大阪池孝暢謹記
［年紀］文化癸酉（一八一三）十二月四日以降
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【四七】［外題］芭蕉碑
資3―墓誌・墓碑銘類91　資10―110頁　博2―165頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一〇三・〇糎　横五九・三糎　軸長一八〇・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］桃貴子姓松尾
［書止］其欲謝師恩之志為誌云
［奥書］前豊倉藩医官八十老翁牛山香日啓益誌
［年紀］享保十九甲寅歳（一七三四）晩秋日
［『大日本金石史』］なし
［備考］【八六】と同一

【四八】［外題］一本亭芙蓉花墓
資3―墓碑類18　博2―167頁　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六八・一糎　横①二六・二糎②一三・四糎
③二六・二糎　軸長一四六・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］一本亭芙蓉花墓
［書止］辞世一本亭芙蓉花（花押）
［奥書］
［年紀］天明三年癸卯（一七八三）正月廿六日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【四九】［外題］井原西鶴墓
資3―墓碑類19　博2―161頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六八・四糎　横①二一・九糎②一七・四糎
軸長一三〇・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］仏皓西鶴
［書止］
［奥書］下山鶴平　北條団水建
［年紀］外箱に元禄元（一六八八）年とある
［『大日本金石史』］5―後編四〇七頁（但しこの拓本と異なる。年紀もあり）
［備考］

【五〇】［外題］大塩平八郎墓碑
資3―墓碑類22　資9―97頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦五八・〇糎　横二六・一糎　軸長一四五・八糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］春岳院清空
［書止］覚信院秀雄
［奥書］
［年紀］文政元歳次戊寅（一八一八）秋七月
［『大日本金石史』］なし
［備考］奥端書「大正戊午四月仲一　南濱藤中先生　廿八歳撰書　其一」
朱印「好尚所蔵金石」

【五一】［外題］大塩平八郎墓碑
資3―墓碑類22　資9―97頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦五八・一糎　横二六・四糎　軸長一四五・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］嗚呼歳月
［書止］叔父養于石川氏吉次郎也
［奥書］大塩平八郎誌且建
［年紀］文政元歳次戊寅（一八一八）秋七月
［『大日本金石史』］なし
［備考］袖に朱印「好尚所蔵金石」
奥端書「裏面　其二」

【五二】［外題］大塩平八郎墓碑
資3―墓碑類22　資9―97頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦五八・三糎　横二五・七糎　軸長一四五・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］春寛延二年二月廿九日
［書止］覚文化二年十二月十五日
［奥書］
［年紀］文政元歳次戊寅（一八一八）秋七月
［『大日本金石史』］なし
［備考］奥端書「右側面　朱印「好尚所蔵金石」　其三」

【五三】［外題］蘿月尾崎君墓
資3―墓碑類25　博2―170頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六八・八糎　横二〇・九糎　軸長一三二・六糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］姓尾崎名雅嘉
［書止］蘿月居士
［奥書］
［年紀］文政丁亥（一八二七）十月三日以降
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【五四】［外題］僧契沖墓碑
資3―墓碑類32　資10―112頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦九〇・二糎　横①六七・二糎②五八・一糎
軸長一七〇・四糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］僧契沖没実元禄十四年
［書止］円寿庵没年六十二臘五十云
［奥書］大坂五井純禎撰
［年紀］寛保三年癸亥（一七四三）孟冬
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【五五】［外題］十時梅崖母墓碑
資3―墓碑類53　博2―168頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六七・八糎　横五〇・九糎　軸長一四一・五糎
［銘文の性格］墓碑
［書出］宝永六己丑年生于大坂為十時氏妻
［書止］享年八十有五
［奥書］増山河内守臣十時半蔵謹建
［年紀］寛政五癸丑年（一七九三）九月二十四日以降
［『大日本金石史』］なし

［備考］袖部「大正六年六月廿二日　八十日寺町正念寺　梅崖母梅崖者葬于此云」
朱印「好尚所蔵金石」

【五六】［外題］中井竹山之墓
資3—墓碑類57　博2—169頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一〇四・一糎　横三七・〇糎　軸長一六二・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］竹山中井先生之墓
［書止］
［奥書］
［年紀］外箱に文化元年（一八〇四）とある
［『大日本金石史』］なし
［備考］袖部に朱印「好尚所蔵金石」

【五七】［外題］西山宗因墓
資3—墓碑類61　博2—160頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一二一・六糎　横三三・四糎　軸長一七九・八糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］実菴宗春処士真山宗岷
［書止］実光昌林処士
［奥書］
［年紀］外箱に天和二年（一六八二）とある
［『大日本金石史』］五—中編二九六頁
［備考］袖部に朱印「好尚所蔵金石」

【五八】［外題］本阿弥光悦墓
資3—墓碑類67　博2—157頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦四一・五糎　横三二・〇糎　軸長一〇〇・五糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］鷹峯山
［書止］本窪庵
［奥書］
［年紀］寛永十四年（一六三七）□　仲春上澣三日
［『大日本金石史』］なし
［備考］袖部端書「洛北鷹峰本阿弥光悦墓　武蔵東山君拓贈
大正元年十月廿九日」
袖部に朱印「好尚所蔵金石」

【五九】［外題］三田浄久夫妻碑
資3—墓碑類70　博2—162頁　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六〇・八糎　横①二一・五糎②一八・四糎
③二一・八糎　軸長一三八・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］妙法広善院浄久信士
演正院妙浄信女
［書止］広　元禄元戊辰年十一月廿七日
演　貞享五戊辰年六月廿三日
［奥書］柏原村三田氏
［年紀］元禄元戊辰年（一六八八）十一月二十七日以降
［『大日本金石史』］五—後編三五九頁
［備考］奥部「河内柏原三田浄久夫妻碑　其三　妙福寺　朱印「好尚所蔵金石」」

【六〇】［外題］室鳩巣墓
資3—墓碑類71　博2—166頁　［員数］一幅

［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦六八・八糎　横二一・〇糎　軸長一一五・四糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］鳩巣室先生之墓
［書止］
［奥書］
［年紀］外箱に享保十九（一七三四）年とある
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【六一】［外題］も里せいざえもん墓
資3―墓碑類72　博2―159頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一七・四糎　横六二・五糎　軸長一六五・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］も里せいさえもん
［書止］
［奥書］
［年紀］己亥万治二年（一六五九）正月十六日
［『大日本金石史』］なし
［備考］下部に朱印「好尚所蔵金石」

【六二】［外題］山口清右衛門墓碑
資3―墓碑類74　博2―163頁　［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一一六・七糎　横①二〇・八糎②一四・八糎
③一六・一糎④一五・四糎　軸長一九三・七糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］（梵字）清誉一故浄入居士
［書止］
［奥書］長崎之住人俗名山口清右衛門
［年紀］元禄五壬申暦（一六九二）七月廿二日
［『大日本金石史』］なし
［備考］端書「大蓮寺　朱印「好尚所蔵金石」」

【六三】［外題］仏足石（元小橋墓地）
資3―石仏造像銘類2　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］縦六一・五糎　横六八・一糎　軸長一三四・七糎
［銘文の性格］
［書出］
［書止］
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］端書「大正三年十一月廿五日　大阪小橋墓地□（貼紙）仏足銘
此日移墓地於小橋寺町十番寺中　朱印「好尚手拓金石」」

【六四】［外題］遺跡碑
資3―一般碑石36　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］①縦五二・四糎　横四二・六糎
②縦六七・四糎　横四二・三糎
軸長一八五・七糎
［銘文の性格］碑文
［書出］大林意備翁発見
［書止］石器時代遺跡
［奥書］従六位勲六等島内藹書
［年紀］
［『大日本金石史』］なし

［備考］

【六五】［外題］春山戸塚先生墓銘　資9—106頁　［員数］一幅（二紙）

［装幀］掛幅装　［時代］明治時代

［軸装の法量］縦①四二・六糎②一七七・二糎　横九四・〇糎
軸長二八七・三糎

［銘文の性格］墓碑銘

［書出］先生諱維秦號静海

［書止］勒銘辞而示千祀

［奥書］従三位爵徳川家題篆　大域成瀬温書

［年紀］明治廿一年（一八八九）十月

［『大日本金石史』］なし

［備考］

【六六】［外題］真宗講師因明　［員数］一幅（二紙）

［装幀］掛幅装　［時代］明治時代

［軸装の法量］縦一七七・七糎　横①九六・一糎②一七七・七糎
軸長二四三・五糎

［銘文の性格］碑文

［書出］嘉永文久之際天下之人

［書止］其概略係以銘銘曰（漢詩あり）

［奥書］従二位勲二等伯爵東久世通禧篆額　文学博士南条文雄撰文
成瀬温書　門人会員等立石　小出芳蔵鐫

［年紀］明治二十七年（一八九五）七月

［『大日本金石史』］なし

［備考］

【六七】［外題］第二回内国勧業博覧会碑記　資9—102頁　［員数］一幅（二紙）

［装幀］掛幅装　［時代］明治時代

［軸装の法量］縦①一二五・七糎②五三・二糎　横五五・五糎
軸長二四七・五糎

［銘文の性格］碑文

［書出］皇明治十有四年

［書止］貞珉庶伝万世謳歌無疆

［奥書］正七位内藤恥叟撰文　成瀬温書丹　矢野喜成鐫并建

［年紀］明治十有四年（一八八二）春三月

［『大日本金石史』］なし

［備考］

【六八】［外題］薬師寺仏足石上面図その一　資3—石仏造像銘類1　［員数］一幅

［装幀］掛幅装　［時代］

［軸装の法量］縦六五・九糎　横七四・八糎　軸長一四二・九糎

［銘文の性格］

［書出］

［書止］

［奥書］

［年紀］

［『大日本金石史』］一—前編一四五頁・附図—四七頁

［備考］袖下部印「好尚所蔵金石」
奥端書「上面共五　朱印「好尚所拓」」

【六九】［外題］薬師寺仏足石名左面（西）その二　資3—石仏造像銘類1　［員数］一幅

［装幀］掛幅装　［時代］

［軸装の法量］縦三七・七糎　横六三・五糎　軸長一〇六・四糎

［銘文の性格］仏足石銘
［書出］大唐使人王玄策
［書止］□仕奉□□□人
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］一―前編一四七～一四九頁・附図―四七頁
［備考］袖部に朱印「好尚所蔵金石」
奥部「左面其五」　朱印「好尚所拓」

【七〇】［外題］薬師寺仏足石背面銘その三
資3―石仏造像銘類1　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］①縦三六・八糎　横一六・八糎
②縦四四・〇糎　横九七・三糎　軸長一二一・八糎
［銘文の性格］
［書出］諸行無常
［書止］三界共契一真
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］一―前編一五〇頁・附図―四七頁
［備考］①右面共五ノ内　朱印「好尚所蔵金石」
②背面共五　朱印「好尚所拓」

【七一】［外題］薬師寺仏足石銘その四
資3―石仏造像銘類1　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］縦六一・二糎　横一一三・〇糎　軸長一四〇・二糎
［銘文の性格］
［書出］釈迦牟尼仏
［書止］是為休祥
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］一―前編一四五頁・附図―四七頁
［備考］端書「大正二年八月十七日　両織田鷹洲為武岡楽山父子共拓」
「正面共五　朱印「好尚所拓」」
袖部印「好尚所蔵金石」

【七二】［外題］薬師寺仏足石（木刻）
資3―石仏造像銘類1　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］縦五八・四糎　横六六・九糎　軸長一三一・二糎
［銘文の性格］仏足石（木刻）
［書出］
［書止］
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］一―前編一四五頁
［備考］袖部に朱印「好尚所蔵金石」

【七三】［外題］山村喜太郎墓碑
［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］①縦五七・九糎　横二七・六糎
②縦五四・八糎　横二七・七糎
軸長一七〇・七糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］君諱方孝
［書止］維天所祐
［奥書］明治庚寅秋八月
［年記］明治庚寅（一八九一）秋八月

［『大日本金石史』］なし
［備考］

【七四】［外題］宗秋妙秋墓碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］縦五〇・八糎　横三二・二糎　軸長一一三・四糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］妙法
［書止］宗秋信士　妙秋信女
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【七五］［外題］鐸木孫二翁碑　資9―104頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一三六・九糎　横六八・一糎　軸長二〇三・八糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］翁諱俊久通称孫二
［書止］神所嘉
［奥書］東京　鳥居義行撰文　成瀬温篆額併書
嗣子鐸木金兵衛陳輝建　横溝豊刻
［年紀］明治一六年（一八八三）十月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【七六］［外題］梅田雲濱君碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一四八・三糎　横六四・一糎　軸長二一六・五糎
［銘文の性格］碑文
［書出］君諱定明称源次郎
［書止］以俾天下義士有勧慰者如此
［奥書］従一位太政大臣三條實美篆額　頼惟復撰并書　同志者建
石工今井重承刻
［年紀］明治一六年（一八八三）九月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【七七］［外題］安野退蔵君碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一四七・二糎　横八一・五糎　軸長二一三・〇糎
［銘文の性格］碑文
［書出］君諱屈字子伸
［書止］真行胸臆
［奥書］鹿門岡千仞撰　大域成瀬温書并篆額　弟邨松省門人知友建之
三宅華陽鐫
［年紀］明治廿七年（一八九四）十月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【七八］［外題］融仙院良岳寿感禅定門碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦三六・五糎　横一二〇・二糎　軸長一七七・〇糎
［銘文の性格］碑文
［書出］融仙院良岳寿感禅定門

［書止］
［奥書］
［年紀］寛永九年（一六三二）卯月九日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【七九】［外題］上野国高津戸古柵碑　資9―107頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一四三・六糎　横八九・七糎　軸長二一二・〇糎
［銘文の性格］碑文
［書出］上野国山田郡高津戸乃柵
［書止］いまもいくさのと□とそきく
［奥書］賜硯堂成瀬温書　井亀泉鐫
［年紀］明治二十三年（一八九〇）十二月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八〇】［外題］平井尭正墓表　資9―101頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一五三・〇糎　横八三・一糎　軸長二二〇・六糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］志士之殉子于国難斃乎
［書止］其概略云
［奥書］明治十三年九月　従五位香川敬三篆額　成瀬温書　鱸猛麟鐫
［年紀］明治十三年（一八八〇）
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八一】［外題］忠魂碑　資9―110頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一七九・八糎　横八八・一糎　軸長二四六・五糎
［銘文の性格］碑文
［書出］明治十年二月前陸軍大将西郷隆盛
［書止］誌存斯碣
［奥書］遠江国州会議長岡田良一郎謹撰　東京大域成瀬温書丹　下田喜成鐫
［年紀］明治十年（一八七七）二月以降
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八二］［外題］正信命仏偈　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一二四・五糎　横五二・三糎　軸長一九一・〇糎
［銘文の性格］版本か
［書出］帰命無量寿如来
［書止］唯信斯高僧説
［奥書］成瀬温拝書　朱印「成瀬温印」・「（印文不明）」
［年紀］明治廿六年（一八九三）六月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八三］［外題］玉松真弘碑　資3―一般碑石15　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一七七・六糎　横八五・二糎　軸長二五二・〇糎
［銘文の性格］碑文
［書出］従五位玉松君既卒

［書止］永傳令誉
［奥書］右大臣従一位勲一等岩倉具視題額　太政官大書記官従五位巌谷修書
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八四】［外題］釧雲泉山人墓碑　資3―墓誌・墓碑銘類41　資9―96頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一五一・八糎　横七一・八糎　軸長二一二・八糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］山人諱就字仲孚
［書止］兮是以雅
［奥書］友人　東都　亀田興撰并書
［年紀］文化十一年（一八一四）秋九月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八五】［外題］八王寺新道碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一七九・〇糎　横八三・〇糎　軸長二四七・五糎
［銘文の性格］碑文
［書出］我神州自　神代以来文武為治威徳遠暨海外矣
［書止］則兩社神霊亦将長与景福也
［奥書］賜硯堂成瀬　温書
［年紀］明治二十年（一八八七）一月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八六】［外題］芭蕉之墓　資3―墓誌・墓碑銘類91　資10―110頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］①縦六七・八糎　横一六・五糎
②縦九七・〇糎　横五九・五糎
軸長一七七・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］桃貴子姓松尾字甚質號芭蕉
［書止］欲謝師恩之志為誌云
［奥書］享保十九甲寅歳晩秋日前豊倉藩医官八十老翁牛山香月啓益誌
［年紀］享保十九甲寅歳（一七三四）晩秋日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八七】［外題］三宅敬一碑　資9―108頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一三五・四糎　横八二・三糎　軸長二〇〇・九糎
［銘文の性格］碑文
［書出］君諱敬一号林泉三宅氏
［書止］故敍其平生如此
［奥書］賜硯堂成瀬大域書
［年紀］明治二十四年（一八九一）十一月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八八】［外題］麻見子與招魂之碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一七九・八糎　横九七・一糎　軸長二四七・七糎

［銘文の性格］碑文
［書出］子與名義比其先
［書止］何其忘之
［奥書］従五位仙石久利篆額　侍従従五位仙石政国撰　成瀬温書丹
［年紀］明治十二年（一八七九）二月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【八九】［外題］坂田藤十郎追慕供養塔　資10―128頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］大正時代
［軸装の法量］縦一三六・一糎　横六四・三糎　軸長一九六・八糎
［銘文の性格］碑文
［書出］坂田藤十郎は元禄期に於ける
［書止］追慕供養塔を建立する所以なり
［奥書］木谷蓬吟識
［年紀］大正八年（一九一九）十一月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九〇】［外題］木暮俊庵碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一七九・九糎　横九六・七糎　軸長二四七・五糎
［銘文の性格］碑文
［書出］人倫之重以君臣父子為最
［書止］碓氷郡町屋村人建碑時年七十
［奥書］陸軍省七等出仕横井忠直撰文　成瀬温書丹
［年紀］慶□（応）三年七月十八日以降
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九一】［外題］村松松斎君碑文　資9―103頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一八〇・七糎　横九六・〇糎　軸長二四六・三糎
［銘文の性格］碑文
［書出］成一業興一利非備識才氣之三者不能也
［書止］功業勒石　于国有光
［奥書］羽峰南摩綱紀撰　大域成瀬温書　井亀泉鐫
［年紀］明治十五年（一八八二）十二月　建石
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九二】［外題］賀川子玄碑　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦①七〇・三糎②九四・七糎③七三・四糎
横一三一・八糎　軸長三〇六・五糎
［銘文の性格］碑文
［書出］賀川子玄先生之扵産科世推為嚆矢
［書止］貞珉茲鐫
［奥書］省軒亀谷行撰　淵陽建　大域成瀬温書　廣群鶴刻字
［年紀］明治二十五年（一八九二）冬日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九三】［外題］大河内桂閣君墓碑　資9―105頁　［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代

［軸装の法量］①縦一七五・三糎　横九五・三糎
②縦一七五・三糎　横一七・六糎
③縦四一・五糎　横九五・三糎
④縦四一・五糎　横一七・六糎
軸長二七四・〇糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］大河内君諱輝声
［書止］鑱辞貞珉
［奥書］亀谷行撰　成瀬温書　井亀泉鐫
［年紀］明治十七年（一八八四）七月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九四】［外題］東征戦亡碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦一七四・一糎　横九三・三糎　軸長二四四・二糎
［銘文の性格］碑文
［書出］慶応之役其皇運再盛之機乎
［書止］有知可以瞑也矣
［奥書］薩摩儒官臣今藤惟宏謹撰　西郷隆盛謹書
［年紀］明治二年次己巳（一八六九）夏五月上院
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九五】［外題］大域成瀬先生之碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］明治時代
［軸装の法量］縦二〇三・〇糎　横一一一・七糎　軸長二七一・八糎
［銘文の性格］碑文
［書出］本邦近世善書者
［書止］名声隆盛
［奥書］従四位勲四等南摩綱紀撰文　不肖男　清書丹　井亀泉鐫
［年紀］明治四十二年（一九〇九）七月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九六】［外題］神武天皇御陵御修築埋碑　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦二三七・八糎　横六四・〇糎　軸長二六八・八糎
［銘文の性格］碑文
［書出］文久三年春二月奉　勅修理　畝傍山東北陵
［書止］知與毋伊波々牟
［奥書］正六位上大和介種松謹撰
［年紀］文久三年（一八六三）春二月
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九七】［外題］竹本義大夫墓　資3—墓碑類48　博2—164頁　［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］①縦六八・〇糎　横一〇・八糎
②縦六八・五糎　横一一・〇糎
③縦一八・七糎　横一〇・五糎
④縦九五・〇糎　横二二・六糎
軸長一六〇・二糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］元祖　竹本義大夫墓
［書止］

［奥書］
［年紀］正徳四甲午年（一七一四）九月十日
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九八】［外題］新田義貞首塚碑
資3―墓誌・墓碑銘類83　資10―129頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］縦①三〇・九糎②一一五・三糎　横六六・五糎
軸長二〇一・三糎
［銘文の性格］碑文
［書出］忠誠勇武之臣
［書止］古之人云
［奥書］谷鉄臣撰　巌本範治書　京都府知事北垣国道篆額　中邨寿田
敬刻
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【九九】［外題］藤樹先生墓
資3―墓碑類59　博2―158頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］縦一一〇・三糎　横三〇・八糎　軸長一六八・八糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］藤樹先生墓
［書止］
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］端書　江州高嶋郡青柳村上小川玉林寺　辛亥四月十二日　朱
印「好尚手拓金石」

【一〇〇】［外題］荻生徂来先生墓碑
資3―墓誌・墓碑銘類32　資9―92頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦八六・九糎　横二四・八糎　軸長一七四・三糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］徂徠物先生之碑
［書止］
［奥書］
［年紀］元文四年己未（一七三九）秋七月
［『大日本金石史』］なし
［備考］【一〇一】と同じ箱

【一〇一】［外題］荻生徂来先生墓碑
資3―墓誌・墓碑銘類32　資9―92頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］江戸時代
［軸装の法量］縦一〇二・七糎　横四三・〇糎　軸長一七四・二糎
［銘文の性格］墓碑銘
［書出］嗚呼大東物先生之墓也
［書止］永于牖民
［奥書］門人朝散大夫藤忠統撰源君岳書
［年紀］元文四年己未（一七三九）秋七月
［『大日本金石史』］なし
［備考］【一〇〇】と同じ箱

【一〇二】［外題］浅山蘭英斎碑
［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］縦六九・〇糎　横二九・四糎　軸長一三一・四糎

［銘文の性格］碑文
［書出］蘭林斎門葉
［書止］法名釋順清
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］

【一〇三】［外題］廣厳院鐘銘　史53―53　博創137頁　［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦①三三・三糎②三三・三糎③三三・七糎④三三・七糎
横①三四・五糎②三三・五糎③三四・二糎④三三・八糎
軸長一四二・八糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］風調雨順　国泰民安
［書止］一切群類　悉利益矣
［奥書］大壇那向阿弥陀仏敬白　奉行左衛門尉藤原朝臣信継　大工兵衛太夫大江□光
［年紀］嘉暦二年（一三二七）黄鐘廿七日
［『大日本金石史』］なし
［備考］①袖部冒頭に朱印「好尚所蔵金石」

【一〇四】［外題］円覚寺鐘銘　博創136頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦六六・九糎　横六八・〇糎　軸長一九四・〇糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］風調雨順　国泰民安
［書止］此月十七日巳時大鐘昇楼洪音
［奥書］當寺住持宋西潤和尚　子曇
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］奥に朱印①「好尚所蔵金石」②其四「好尚所蔵金石」

【一〇五】［外題］常楽寺鐘銘　史53―25　博創131頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦五〇・〇糎　横①四五・三糎②四六・一糎
軸長一三九・〇糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］鎌縣北偏幕府
［書止］以刻銘文
［奥書］左馬允藤原行家　法名生蓮　作辞白
［年紀］宝治二季戊申（一二四八）三月廿一日
［『大日本金石史』］二―前編六五頁
［備考］【一〇六】と同じ箱

【一〇六】［外題］常楽寺鐘銘　史53―25　博創131頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦五〇・三糎　横①四六・〇糎②四五・三糎
軸長一四〇・八糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］偉哉斯器
［書止］萠彼福田
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］二―前編六五頁
［備考］袖に朱印「好尚所蔵金石」

【一〇五】と同じ箱

【一〇七】［外題］西本願寺鐘銘（元広隆寺）
博創127頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］
［軸装の法量］縦四九・八糎　横六八・〇糎　軸長一七一・二糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］（梵字）夫廣隆寺者上宮太子
［書止］宜成法器　乾樵標名
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］一―後編三八八頁
［備考］②朱書「番外三十」
②朱印「好尚所蔵金石」

【一〇八】［外題］金剛峯寺鐘銘
史53―35　博創133頁　［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦①二六・八糎②一五・二糎③二一・二糎
④三一・八糎　横①三四・〇糎②四二・九糎
③三一・八糎④四二・八糎　軸長一三八・五糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］敬白　河内国高安郡教興寺洪鐘一口
［書止］
［奥書］大工沙弥恵念
［年紀］弘安三年庚辰（一二八〇）正月二十五日
［『大日本金石史』］なし
［備考］奥に朱印「好尚所蔵金石」
「大正三年秋季皇霊祭　今在高野山案内所前
高野山井村真琴君見贈」

【一〇九】［外題］鰐淵寺鐘銘
史53―14　博創127頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］平安時代
［軸装の法量］縦二九・〇糎　横①三九・五糎②四〇・五糎
軸長一一五・八糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］伯耆湘櫻山
［書止］誅罰身命焉
［奥書］
［年紀］寿永二年（一一八三）か
［『大日本金石史』］一―後編四二二頁・附図―八七頁
［備考］①朱印「好尚所蔵金石」
②「大正二年八月廿七日出雲鰐淵寺鐘」
朱印「好尚所拓」

【一一〇】［外題］慈光寺鐘銘
史53―43　博創135頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦三四・七糎　横五九・八糎　軸長一〇七・五糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］河内国河内郡葛木北峯慈光寺
［書止］沙汰寺僧等相共所奉祷改之也
［奥書］一和尚阿闍梨弁円　大工山河貞清　勧進聖人僧行音　僧覚秀
僧聖音
［年紀］正応五年壬辰（一二九二）十一月廿四日
［『大日本金石史』］四―第三章鐘一四三頁
［備考］袖に朱印「好尚手拓金石」・「好尚所拓」

【一一一】［外題］滝水寺鐘銘
史53―58　博創137頁　［員数］一幅

［装幀］掛幅装　［時代］室町時代
［軸装の法量］縦三四・二糎　横五二・〇糎　軸長一〇六・三糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］敬白　奉懸鋳下総国瀧水寺椎金一口事
［書止］仍如件
［奥書］所存
［年紀］建武五年戊寅（一三三八）八月八日
［『大日本金石史』］なし
［備考］袖部に朱印「好尚所蔵金石」

【一一二】［外題］釼神社鐘銘
史53―3（織田神社）　博創124頁（織田神社鐘銘）
［装幀］掛幅装　［時代］奈良時代　［員数］一幅（二紙）
［軸装の法量］①縦二五・四糎　横三八・六糎
②縦二四・八糎　横四四・一糎
軸長一〇九・五糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］釼御子寺鐘
［書止］年九月十一日
［奥書］
［年紀］神護景雲四年（七七〇）九月十一日
［『大日本金石史』］一―前編一八一頁
［備考］①「大正二年九月十一日越前大野郡下味見村高嶋正君拓碑」
朱印「好尚所蔵金石」

【一一三】［外題］妙満寺鐘銘（元道成寺鐘）
史53―68　博創139頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］南北朝時代
［軸装の法量］①縦三四・八糎　横四二・四糎
②縦三四・五糎　横四二・三糎
軸長一二九・三糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］聞鐘声智恵長
［書止］大工山田道願小工大夫守長
［奥書］
［年紀］正平十四年己亥（一三六〇）三月十一日
［『大日本金石史』］二―後編四二二頁
［備考］

【一一四】［外題］華光寺鐘名（元岩辺寺鐘）
史53―42　博創134頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦①三一・一糎②三〇・七糎　横四三・〇糎
軸長一二二・二糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］愛岩護山別院
［書止］（梵字）
［奥書］大工橘則弘
［年紀］正応元年（一二八八）十月十八日庚午
［『大日本金石史』］二―中編一七三頁
［備考］端書「大正三年十一月八日梅原末治君贈　京都華光寺蔵」
①袖に朱印「好尚所蔵金石」

【一一五】［外題］東大寺真言院鐘銘
史53―31　博創133頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦三五・四糎　横三四・三糎　軸長九四・八糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］東大寺真言院者弘法大師之聖跡密教伝持之霊地也

［書止］願三有驚虚夢六趣感妙聲
［奥書］真言院再興沙門聖守謹記
［年紀］文永元年甲子（一二六四）卯月五日
［『大日本金石史』］二―前編一〇五頁
［備考］袖部に「以文会旧拓」朱印「好尚所蔵金石」

【一一六】［外題］興福寺勧善堂鐘銘　史53―2　博創123頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］奈良時代
［軸装の法量］縦六一・九糎　横二三・九糎　軸長一一一・八糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］槌槌神器
［書止］白鑞二百六十斤
［奥書］鋳施主徳因時
［年紀］神亀四年歳次丁卯（七二七）十二月十一日
［『大日本金石史』］一―前編一一一頁・附図―二一頁
［備考］袖部に「興福寺勧善堂鐘銘模刻古梅園蔵版」
奥下部に「三浦蘭坂手記」朱印「好尚所蔵金石」

【一一七】［外題］金峯山寺鐘銘　史53―9　博創125頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］平安時代
［軸装の法量］縦三二・三糎　横三六・二糎　軸長九〇・三糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］遠江国佐野郡原田郷
［書止］長福寺鐘
［奥書］
［年紀］天慶七年（九四五）六月二日
［『大日本金石史』］一―後編二八六頁
［備考］袖部に朱印「好尚所蔵金石」

【一一八】［外題］妙心寺鐘銘　史53―1　博創123頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］飛鳥時代
［軸装の法量］縦六〇・二糎　横一八・七糎　軸長一一〇・九糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］戊戌年四月十三日壬寅収糟屋評造春米連廣国鋳鐘
［書止］
［奥書］
［年紀］戊戌年（文武二年　六九八）四月十三日壬寅収鋳
［『大日本金石史』］一―前編六七頁・附図―二一頁
［備考］右下に「妙心寺」「梅原末治君兄贈
田坂謙一」朱印「好尚所蔵金石」

【一一九】［外題］養寿院鐘銘　史53―28　博創132頁　［員数］一幅
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦四四・八糎　横四八・一糎　軸長一一六・八糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］武蔵国河肥庄　新日吉山王宮
［書止］大檀那平朝臣経重　大勧進阿闍梨円慶
［奥書］鋳師丹治久友　大江真重
［年紀］文応元年大歳庚申（一二六〇）十一月廿二日
［『大日本金石史』］なし
［備考］端書袖部「武蔵川越町養寿院　山王宮在入間川前岸三芳野宇
山王原　証川越町西北一里縁云　大正十年十二月十
日東京三輪善之助君見贈」朱印「好尚所蔵金石」
端書奥部（朱書）「平経重は源義経の舅川越太郎平重頼の一
門なり　武州川越養寿院鐘　大正十年十月卅日拓
之」（朱印「三輪」）

【一二〇】［外題］長寶尼寺鐘銘
史53―15　博創128頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦四八・二糎　横①二五・五糎②三八・二糎
軸長一二〇・〇糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］建久三季清涼七月忽命危匠
［書止］谷保松等　鎮崇華堂
［奥書］
［年紀］建久三年（一一九二）七月
［『大日本金石史』］四―第三章鐘一三一頁
［備考］摂州平野郷王舎山長寶尼寺　此鐘金石年表等御不録
三浦蘭坂先生金石帖収之　曰寺在大念仏寺門前南極東行二三丁
大正元年十月廿一日拓　朱印「好尚所拓」・「好尚所蔵金石」
大正六年四月　国宝

【一二一】［外題］蓮華寺鐘銘
史53―38　博創134頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦四〇・四糎　横①四六・八糎②四六・二糎
軸長一三〇・五糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］敬白　奉鋳　江州馬場宿蓮華寺突鐘事
［書止］泰平乃至法界年等利益
［奥書］勧進京主法師　願主僧畜能　大檀那沙弥道日
［年紀］弘安七年（一二八五）十月十七日
［『大日本金石史』］二―前編一五九頁
［備考］端書袖部に朱印「好尚所蔵金石」
端書奥部「大正二年七月十九日　朱印「好尚所拓」」

【一二二】［外題］浄橋寺鐘銘
［員数］一幅（四紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］①縦四六・六糎　横四六・八糎
②縦四六・六糎　横四六・七糎
③縦四七・二糎　横四六・三糎
④縦四七・二糎　横四六・三糎
軸長一六六・六糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］衆生受佛戒　即入諸佛位　位同大覚已　眞是諸佛子
［書止］南無阿弥陀佛
［奥書］願主沙門證空
［年紀］寛元二年（一二四四）無射九月
［『大日本金石史』］なし
［備考］①右端「明治四十四年二月廿六日拓　国宝攝津浄橋寺鐘
右」朱印「好尚所拓」・「好尚所蔵金石」
③左　朱印「好尚所拓」・「好尚所蔵金石」

【一二三】［外題］金剛寺鐘銘
史53―24　博創130頁　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦①五九・六糎②四六・三糎③四三・二糎
横①三一・九糎②四〇・四糎③一六・二糎
軸長一五二・二糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］諸行無常
［書止］寂滅為楽
［奥書］金剛山寺（字矢田寺）　大勧進（大法師聖暁　大法師玄長）
［年紀］寛元四年丙午（一二四六）三月日
［『大日本金石史』］二―前編六四頁

［備考］端書「大正元年十二月八日剋　大和矢田山　朱印「好尚所拓」」
①袖部に朱印「好尚所蔵金石」

【一二四】［外題］東漸寺鐘銘
史53―46　博創135頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］鎌倉時代
［軸装の法量］縦四三・四糎　横①四一・四糎②五四・四糎
軸長一三四・〇糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］久良岐古拓提号曰東漸
［書止］帝基不領
［奥書］住山比丘了欽謹題　大工大和権守物部国光
［年紀］永仁六年戊戌（一二九九）孟春望日
［『大日本金石史』］なし
［備考］①奥部に朱印「好尚所蔵金石」

【一二五】［外題］浄土寺鐘銘
博創132頁　［員数］一幅（三紙）
［装幀］掛幅装　［時代］安土・桃山時代
［軸装の法量］縦①三三・七糎②三三・九糎③三三・九糎
横①八六・五糎②三四・六糎③五二・〇糎
軸長一五七・〇糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］供養導士権律師春玄
［書止］永不閉之秘術
［奥書］旦那　木之内神五　石丞　助言四人　有玄　正更庵　藤大夫
山木
［年紀］①慶長七年（一六〇三）六月十二日　②建長六年（一二五四）
三月十五日　③貞和五年（一三四九）十一月十五日
［『大日本金石史』］なし
［備考］③袖下部に朱印「好尚所蔵金石」

【一二六】［外題］平等院鐘
史53―5　博創125頁　［員数］一幅（二紙）
［装幀］掛幅装　［時代］平安時代か
［軸装の法量］縦①六一・一糎②五九・三糎　横六七・四糎
軸長七九・八糎
［銘文の性格］鐘銘
［書出］
［書止］
［奥書］
［年紀］
［『大日本金石史』］なし
［備考］天女像